

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20年 10月 1日
事業所名	南部薬品株式会社
ユニット名	グループホーム リズム 2
事業所番号	2372102216
記入者名	職名 管理者 氏名 鈴木尊子
連絡先電話番号	0564-58-3530

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	ミーティング時に理念を改めて読み職員一人ひとりに共通認識ができるようにしている。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	理念にそって、支援されているか確認することを習慣にしたい。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	家族の方に理解されているか分からない家族もあります、面会時に理念について話ができるようにしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	散歩で神社へ行くとき近所の方と神社の前で座ってはなしなど施設の周りでは花をもらったり野菜を頂いたり流しそうめんのとき竹を頂いたり良い関係ができているとおもいます。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	2月には町内の親善クラブによるイベントで昔の遊び学びで地域の子供たちと遊ぶイベントでお手玉と他何か作って欲しいと依頼があり参加予定で総代さんと話を進めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	隣に小学校があり交流があり利用者と一緒に行き外での授業を見たり施設の非難訓練にも参加してもらえるように推進会議で取り上げたい。(町内の非難訓練なども)	○	地域の民生員さんとも協力し一人暮らしの方や認知症についてや介護についての説明や困っていることなどの会を開いてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価など新しい職員には前回実施したものが、ミーティング以外にも説明したり理解をしている。個人でやるものではなくスタッフ同みんなで行って意向と意志があり改めて利用者、家族との交流が見直せる。	○	評価に対し改善すべき点を改善できるよう優先すべき順をつけるなどし解決できるように話し合い取り組んでいく又改善し見直しをし出来ている所ももう一度行っている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、地域包括センター、総代、民生委員、家族代表、ホームリーダー管理者など2ヶ月に一度行っている。毎回質問、意見なども出ており助言などいただいてサービスの向上に取り組んでいる。	○	7月の運営推進会議よりリーダーだけではなく職員1名交代で会議に加わり推進委員会がわかるようにとまた違った会議がひらけるよう参加することになった。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に一度相談委員の方が訪問して下さるので必ず意見を聞いたり相談したりしている。岡崎のグループホームの小部会があり管理者、リーダーなどがあつまり意見交換したり市の相談委員全員との意見交換もある。	○	小部会の会長が意見がまとまると市役所に相談、意見をしてくれりなどみなさん積極的である。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族会や面会時にはなしをしている。今必要な方が該当しないため今後の課題となる。	○	成年後見制度を知らない職員もいたので次回の勉強会にする。講演もあるので参加が決まっている。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会でも取り入れ、職員からも定期的開催してほしいと声もでて、ミーティング時にも少しの変化、気づくことが早く分かればと職員の大切な役割であると考えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時ゆっくり分かりやすく説明をしている。契約のとき職員も一人加わり家族の方に不安などなくしてもらい十分な説明をしている。</p>	○	<p>契約後、入居の日までに質問、不安な点など連絡を入れている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の表情を観察したり会話の中でコミュニケーションを取りながら不安や不満を取り除けるように日々気を配る。</p>	○	<p>日常接している職員に対して気を使う利用者もいるかとおもわれるので月に一度訪問される市の相談委員のような第3者的な相談者を取り入れた。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>リズム便りを発行している。日ごろの様子や写真付きで加えて連絡じこうなど記入している。</p>	○	<p>リズム便りをもう少し増やしていきたい。困ったことや何かいる時ときだけ連絡するばかりではなく家族の様子もききながら又日ごろの様子も電話して家族との報告も密にしている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年に2回家族会を開いている。職員と家族との意見交流を行っている。個人面談も実施した。家族アンケートも結果を職員に回覧し会議で話し合うなどしている。</p>	○	<p>利用者でお抹茶をたてるかたもおおく、うどん作りも行なっているのでそれを家族とおこなって食べながら家族同士の会話や意見交換などの計画を立てている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>企画書、工夫と改善、意見書を自由に提出できる。通った提案を全員が把握するように会議に話すなどしている。</p>	○	<p>シフトの関係で出勤が空く職員もいるので議事録など目をとうさない場合があるので全員にわかるようにしていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者3人に対し職員1人を確保できる様職員で協力しシフトを調整している。イベント、行楽行事などある日は安全面をなど余裕ある人員を確保できるよう務めている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職は以前にくらべなくなり利用者が安心して過ごせるよう移動も最小限に考えている。	○	職員同士相談、意見、が話しあえる環境を作り研修などにでかけるなど交流などを増やしていきたい。
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者自ら資格取得に関してや、知識をたかめ業務、自身に役立つなどをはなしている。施設内では看護師が講師となり研修など行いグループでも勉強会に取り入れて欲しいことをミーティングなどで上げ行なっている。	○	職員から、勉強会の開設の声が上がっているの で、その声を減らさないで計画をたて実行してい きたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一度岡崎市のグループホーム小部会があり管理者、リーダーが参加している。意見交換や交流もあり連絡を取り合えることもできている。三河地区のグループ交流会にも参加している。	○	管理者、リーダー以外職員も参加していきたい。 職員からも出席したいと進んで話がでるので順番 に出席したい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	社員旅行、社員、パート区別なく参加できる。花見会、食事会、忘年会、新年会参加の呼びかけもあり参加者も多い。	○	いろんな行事に参加しコミュニケーションを取っ てん何でも話せる関係を築き役立つよう取り組 む。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	工夫と改善の提案を提出することによって内容を 検付したのち報奨金がでるなどある。	○	励ましの言葉など自然に出てくるような環境であ るよう努力していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居直後は本人と話す機会を作り困っていることや困惑を招かないように受容の姿勢を忘れないよう心かけている。</p>	○	<p>事前に家族や関係者に情報を聞き楽しく話しやすい』話題から信頼関係を築けるよう協力している。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ニーズに答えられるよう、相談、問いかけに対し丁寧に聞く姿勢を心掛けている。また入居されてからの様子など報告するとともに入居時の情報がないことなど連絡を取り詳しいことをきくようにしている。</p>	○	<p>一方通行にならないよう対話、機会を行なっていきたい。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>日常の施設での様子を観察しより楽しくすごせるように話しあい本人の意思を尊重し家族の要望に添えるような支援方法を考えて努めている。</p>	○	<p>他のサービスの情報収集できるよう行うようにしていきたい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>徐々に馴染めるよう気楽に見学をしていただいたり体験入居も進めているが急を要する家族もいるなど不安にならないよう明るく積極的にはなしかけている。</p>	○	<p>家族から入居の希望が強く利用者本位でないことがある。暮らす場所が変わる、大変さ不安さなどを理解してもらえるように、家族との時間を多くとっていきたい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>感謝の気持ちをだしたりその時に応じ必要以上に口をだしたりせず見守りながら出来る限り一緒に作業を行い大半のことがやれるやれない方の差が大きくいつも同じ方に頂くような片寄りがないよううしている。</p>	○	<p>無理だときめず失敗しても自立心をなくさないようその人に合ったやり方出来る事を見出せる取り組みをやっていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人の最近の様子を伝えたりフロアに貼ってある写真を見ていただいたり月に何度か報告を交え連絡をしている。その時、本人もでるときがある。	○	外出、外泊した時の様子も家族に伺う。外泊、外出などの回数を多くしてもらえるきっかけを作っていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ミーティング時に面会や連絡がどだ得てないか各担当に聞くなど何かがあればすぐに連絡とるなど職員同士できめるのではなく家族の方と、ともにそうだししている。	○	リズム便り、電話連絡など詳しく連絡をいれているおかげで面会に来る家族も不安なく普段とかわりなく話せると切れないようにリズム便り、連絡していく。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族のかたに友人などのかたに施設にいることをなるべく伝えてもらい面会に来ることがある。外泊、外出を呼びかけをお願いしているそれによって自宅に行かれることもあるのでつながりが保たれる。	○	馴染みの場所など家族、本人に聞き買い物へ出たとき帰り道などして立ち寄ることもある。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	意志の疎通が困難なかが孤立してしまうことがあるが、体操、散歩など出来る限り行動を一緒にできるようにしている。	○	洋服の着方が分からなくなる方もいるが利用者が見つけお互い助けあい、協力している。食事も自分たちで分担するなどよい関係を壊さないように職員が見守っていきたい。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終わっても近くに来たからと言いたずねてくるかたもいる。イベントなどある時声をかけるなど年賀状、などしばらくは送っている。	○	開放的で誰にでも気軽に遊びにこれ相談をしてもらえるようにしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>意思表示の難しいかたには家族に協力してもらいアセスメントをとり電話で家族と話しがしたいと先に家族に連絡をとり実行するなど少しでも希望を叶えてあげたい聞き出すことに心がけている。</p>	○	<p>職員がどんな対応、要望にも答えられるよう、担当者会議などそれぞれのテーマを出していきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族から生活歴、暮らしぶりなど書いていただき職員全員把握している。利用者のなかには、何でそんな事しているのと嬉しそうに聞き話される方もいる。</p>	○	<p>一緒に生活してる中で新しい発見、気づきがあれば記入に残し職員全員把握していきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>出来る事、出来ない事シートを作成しているので得意なことをだし利用者全員に無理をせずしてもらっている。また、新たに見つけだすことができt場合ノートに記入し職員に把握してもらう。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>面談票や家族の意見、意向を聞き介護計画書を作成し同意を確認している。申し送り、カンファレンスなど職員同士意見を出し合いながら作成している。</p>	○	<p>担当者会議など家族の方にも参加してもらえるように、面会時や電話連絡時に一言そえている。実現に向けていきたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月、6ヶ月としているが少しの変化があればカンファレンスなどをし意見を聞きながら見直しをしている。その時には家族にも連絡を忘れないようにしている。</p>	○	<p>見直し、カンファレンスなど行っているがモニタリングも毎月行っている。遅れないよう職員一人ひとり心がけるようにしたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日課を計画書や暮らしぶりなどのファイルを見て利用者一人ひとりの日課表を作りやれたことを自分でシールをはり今日の一日を振り返りよい日、悪い日を決め、〇、△、×などを決めて書いてもらっている。	○	毎日の日課が定着してきて自分から行なう方もいる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	複合施設なのでイベントや行事など多く、協力医内科、心療内科の往診や看護師との24時間連絡もとれる体制ができている。マッサージを週に一度うけている。	○	現在、ご自分で動かれている方も重度化されてきます。複合施設ならではのよい所をいかし予防運動機械などを使い計画を立てとりくんでいきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員のかたには一ヶ月に一度会って話しをしたり相談、意見などをしたりしている。ボランティアのイベントも多く全員参加している。避難訓練のとき消防のかたにも来て頂き消火器の使い方など、実際にふれたり、近くの小学生も訪問するなどしている。	○	民生委員の方やボランティアなど協力してもらうだけではなく入居者や職員も協力できるような関係をとりたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前に不足触っていた、ケアマネジャー、ヘルパーと関わりがなくなるが、入居前により関係をとっているのか時々訪問をしてくださるので、職員、ケアマネジャーも意見交換などし支援を行っている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて職員も参加あうようになり地域包括支援センターの役割の内容を理解してきたので地域包括支援センターの方と交流がはじまったばかりです。	○	地域密着、支援センター等役割など勉強会など予定がくまれている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医、入居前のかかりつけ医に受診することができる。通院介助はなるべく家族にお願いし困難なときはホームで対応する。家族から詳しく受診の内容を報告してもらい日報、連絡ノートにすぐ記入している。	○	協力医以外で受診されり時までは、家族もすぐに来てくださり帰ってくると何処が悪かったか分からないくらいの笑顔で帰られてくる方もいる。このまま家族ともいい関係で持続していきたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	内科、心療内科と往診があり、心療内科のドクターに相談、指示などを受け利用者、職員もドクターと信頼関係ができ薬の適切な指示で最小減の服薬している。	○	なるべく薬に頼らないせいかつを送れる様に認知の知識を広げて主治医と支援していきたい。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	複合施設なのでいつでも看護師と連絡取れる又ホームにも看護師が勤務しているので毎日のバイタルチェックには何気ない会話から体調の変化もわかるときもある。往診時看護師1名来る利用者と会話がとだえない。	○	看護師中心で体操や失禁体操など取り入れて行なっている。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院したときは介護サマリーを詳しく書き職員がこまめに顔出し看護師、先生と情報を聞き退院の目処などきくなどホームの計画をのべ退院まえには家族、本人にと話しすぎに良い支援を行なえるようカンファレンスをおこなう。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	24時間看護師と連絡が取れ協力体制ができている、今、対象者の方がみえないので研修や小部会など終末期を経験したホームの意見などとりいれるなどしている。	○	契約時に家族に説明をして行くのだがそれだけでは難しいと職員からも意見があり、面会時や家族会の後の個人面談のときも取り入れるようにして行くことになった。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在、重度な方や終末期に関わるかたが見えないが今後起きてくるので意見交換や勉強会の予定がくまれている。	○	小部会や他のグループホームでは経験しているのでアドバイスや取り組みかたを聞き進めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	別居所へ移りすむ事がきまれば介護サマリー他にホームでの暮らしや以前家族から書いていただいたのを書き加え話し合い情報交換をしている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	個人情報取り扱いは職員全員に説明をしている記録などは事務所で管理されている。馴れ合いすぎる言葉や話し方など注意するなどミーティング時に伝えている。職員同士注意しあえる関係でいる。	○ 信頼関係が馴れなれしくならないように、確認、見直しをしていきたい。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	押し付けにならないよう気をつけている。コミュニケーションをとり希望や表出を引きだせるよう心掛けている。	○ 理解力に個人差もありその人にあつたスピードにあわせ話しかけるようとりくんでいる。
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	食事は利用者と職員とで作るので時間に制限はなく一人ひとり別々なことをしている日もある畑、散歩、外気浴、縫い物、音楽をきくなど入浴も午前午後どちらでも本人の好きな時間に入浴してもらっている。	○ 言葉で言い表せない方もみえます。見えない心の動きまでとれるようにしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	月に一度メナード化粧が訪問に来て女性利用者は楽しみにしてられ笑顔が多くなる。服は朝、一緒に選び着たい服をきている。理美容は施設に訪問にくるので切りたいと本人から言う方が多い。中には家族と行く方もいる。	○ おしゃれは、女性にとって、とても重要なことだと、入居者も女性が多く、職員と一緒に、はり合い生活していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今は朝、昼、夜とホームで利用者と職員と一緒に作ったり片づけなどおこない買い物も献立を決め買い物へいくなどしている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコお酒は病気などをして止められている方もいるがそうでないかたは夏祭りやバーベキューなどイベント時には楽しんでいる。	○	日ごろの食事にも時々入れたいと今話しあいをしている。
56 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄の時間、パターンを把握をしているので声をかけをトイレで排泄できるようにしている。リハパンの枚数を減らして欲しいと要望」があり実際減らした事例もある。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望もあり毎日入浴してるかやもいる。ほぼ一日置きで入浴しているが、その日の気分で入らない片もいる。無理やりの入浴はしていないがあまり入らないと気持ちよく入浴してもらえるように考えて行なっている。	○	複合施設なので大浴や足湯など楽しむこともある。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ウトウトされる片もいる無理に起こして夜寝てもらわないでその人の生活習慣を家族から聞き支援している。	○	和室があるのでテレビを見ながらごろ寝する方くつろぐかたと様々な自分たちの居場所をみつけている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	イベント日がある時利用者にイベントがあることをつたえると、好きなイベントに参加してもらいがほとんどの方は行っている。畑をやる片、そろばん、針仕事など好きな事を楽しんでいただいている。年に2回遠出行楽、運動会、夏祭り、流しそうめん、多くの楽しみがある。	○	役割、など今以上に見つけ知る、見つけられるように、本人、家族とコミュニケーションを多くとっていきたい。


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材を買いに出かけるのでお金の大切さ知っている。おやつを自分で好きな物を選んで自分でかうことをしている。そのつと職員が見守りおこなっている。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物、シャンプーボディークリーム歯磨き粉など近所のドラッグストアへ個人と職員とで行く。帰り本人しっかりされているかたは一人で帰ることもある。散歩も自分で行かれるかたはなるべく自由に行ってもらっている。安全も確保。	○	一人で散歩して帰ってこれる方に、近くの、スーパーなど一人で行けるように支援していきたい。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	面会だけではなく外出をしてくれる家族が多く職員と家族の連絡、信頼関係がとれているのでわ年に2回遠出など利用者の意見を聞いて行くことが多い。	○	今職員で話しが出ているのは家族と利用者、職員で一泊旅行の企画がでている。実行したい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に、手紙、電話をしている方はいる。手紙については漢字など忘れていたもいるので漢字ドリルや読み書きなど積極的にやられている。手紙の返事がくると嬉そうな顔おされすぐに返事をかいている。	○	利用者全員手紙など送れるようにとりくんでいる。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人いつでも訪問できるように、お茶テーブルクロスなど手作っている。急に家族がみえてもすぐ対応できるようにまた、伝えられるようできている。	○	面会に来てくださる家族に失礼のないよう気配り、言葉づかいなど、注意していきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束排除宣言」拘束等行動制限についての取扱ファイルしていつでもみれるようしてある。排除に向けて膳組総一体となり取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解してお り、鍵をかけないケアに取り組んでいる	午後からオートロックを解除して受付で本を読む かたや他の利用者、職員と話など一人で出かける など、居室の窓ストッパーも解放してあるところ もふやしている。玄関は天気の良い日や暖かい 時は一日中あけている。	○	今は、オートロックを開放しているが今後午前も いつでも、出入りできるようにしていきたい。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、 昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、 安全に配慮している	夜間時は職員が一人になり見守りカメラの取り付 け後何人の方が昼夜逆転もほぼ無くなりトイレな ど起きるなどすぐに駆けつけるなど様子を見ては カンファレンス、ミーティングなど行い安全につ とめている。	○	見守りカメラ取り付けにあたり家族に同意書を いただいている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのでは なく、一人ひとりの状態に応じて、危険を 防ぐ取り組みをしている	針、はさみ、など職員の見やすい位置において あり利用者が使うのにもわかりやすい位置にお くなど工夫している。収納する箱にはひらがな で大きく書き見やすいようにしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を 防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態 に応じた事故防止に取り組んでいる	複合施設なので勉強会や施設全体の勉強会も多 く行なわれている。知識を学び、ヒヤリハット事 故報など提出し分析など行い事故防止に活かし ている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全 ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定 期的に行っている	緊急事故時対応マニュアルを用意してあり目を通 し電話機前には対応のマニュアルをはっていつ でも確認できるようになっている。	○	ミーティング時には対応マニュアルを見るよう に声かけをしているか職員全員と見直しをする
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を 問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得られ よう働きかけている	年2回避難訓練を実施している。入居者参加して 行なっている。運営推進委員会においても総代 より小学校に地域の方は避難するが多くて困 るときは施設へのお願いと協力が求められて いる。	○	夜間は職員数が限られているため夜勤勤務を行 なう職員は防災訓練への参加をするように していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	○	勉強会等、研修など参加して職員の向上にむける。
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	○	協力医と相談、質問などしやすい環境や信頼関係ができていますので支援にいかしたい。
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	○	献立を、入居者と決めながら、栄養バランスの本を読んだり、調べたりしている。料理の講習に、入居者と、出席したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	施設全体の勉強会があり、グループホームでも話し合いをしている。往診時には先生より感染症についてや予防、対応を聞いている。	○	複合施設なので、グループホームで発生しなくとも他事業所で発生する可能性があるので入居者、職員とも感染予防を徹底していきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品の買いだめをせず、使いかけには日付を記入し早く使用するようにしている。食中毒マニュアルもあり目を通してしている。調理する時は、エプロン、三角巾を使用し、手洗いなどあたりまえのことは徹底して行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関、施設周りには利用者様が植えた花がある。また野菜も育てている。花や野菜の苗は利用者様と農園などに行き選んでもらい植えている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭は広く、ベンチテーブルがあり、自由に中庭に出られたり、季節感を味わうよう壁に飾りをしたり、している。	○	四季を大切にし入居者にみわかるように、その人なりのスタイルを尊重していきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルは四角、丸を1つ窓際にはソファを置き、和室にはコタツ、枕を置いている。利用者様は好きな所に座り話しをしたり、新聞を読んだり、塗り絵などしている	○	心地良い場所が提供できる様に職員、入居者と一緒に工夫していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベット以外は自宅で使い慣れた家具、寝具を持って来て頂き使用している。塗り絵や行楽などの写真を飾っている方もいる。	○	職員のやりやすいとかではなく入居者が心地良い動きや、生活空間を大切に尊重していきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日、窓の開け空気の入替えを行っている。各居室はエアコンの温度調節、湿度には気をつけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	杖を使用している方がなかなか思う様に歩行が出来ずイライラされていたためミーティングで話し合いをしてシルバーカーを使用し活動的になったり、手すりなど必要な場所にとりつけてある。	○	安全な環境を提供するのは大切だが楽と勘違いをしている職員もいるのでみなおしていきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分でできる限り行ってもらいそのなかで、出来ないことを見つけ記入し職員と一緒に支援している。	○	出来る事を減らさないよう関わりをしていきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭がありベンチとテーブルが置いてありティータイムなど楽しめる。また、プランターを使用し野菜、花を育てている。	○	複合施設なのでよい点を十分いかして生活が出来るよう支援していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

施設の周りに小学校があり居室から子供たちの姿が見えたり声が聞こえたりします。交流会もあり一緒に過ごす時間が楽しそうにしておられます。毎月色々なボランティアの方が来られ参加して楽しまれています。季節行事として、豆まき、お花見、夏祭り、運動会、行楽旅行、クリスマス会を行っています。